

Lesson 4 室内気候の変化が、健康生活を作る。

私たちの直接の祖先であるホモ・サピエンスは、10万年前にアフリカで誕生したと考えられています。ほぼ数万年をかけてユーラシア大陸全域にその居住範囲を広げ、1万年前には南アメリカの南端にまで到達しました。

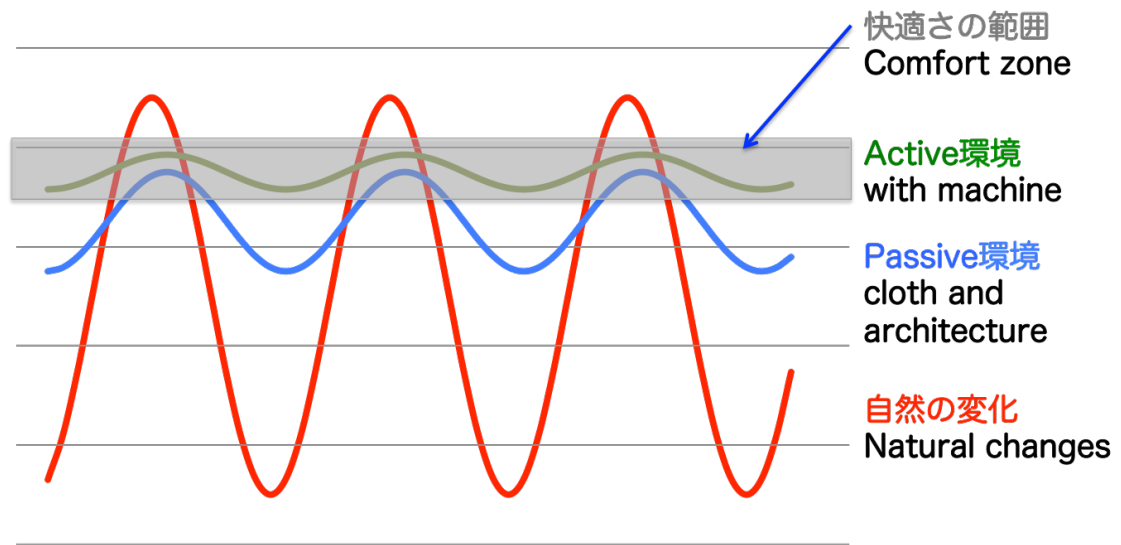
この「出アフリカ」と全地球的な拡散を支えたものは何か？

それは、生存に不可欠な食料調達技術の高度化と、衣服、住居を含む社会的適応能力の獲得にあります。時に厳しい自然の変化を緩和し、安定して子孫を産み育てるためには、快適な「スミカ」を得ることは不可欠だったに違いありません。機械設備が誕生するまでの「スミカ」は、地域の気候風土の変動を抑制して、生存に最低限必要な環境を創り出すことが使命でした。

一方、産業革命以降の住宅にはエネルギーの変換装置である暖房や冷房、照明や換気装置が導入され、健康的な環境を徐々に整えていくこととなります。都市では上下水道も普及し、平均寿命の延長に大きく貢献しました。20世紀初頭には50歳前後であった平均寿命も、現在では80歳を超えるまでになりました。医療技術の進歩を考慮しても、急激な寿命の伸長は目を見張るばかりです。

一方で、室内での労働や学習時間が長時間化している現代人には、これまでとは違ったストレスが過度にかかる環境に晒されるようになり、自律神経系の疾患を抱える人も年々増加しています。自然界に働き「スミカ」で休むといった原体験が逆転し、室内で働き自然に遊ぶ、といった光景が普通になりました。

環境形成に欠かせない設備は、大きな能力を持つ機械を制御しながら使用して、環境を一定に保つといった設計思想が長い間支配してきました。一方で、断熱性能を高め設備の容量を小さめに設計すると室内環境の変動幅は相対的に増大し、快適環境の範囲内で自然の変動を再現できることも知られています。強大なパワーで自然をねじ伏せるのか？機械の力を最小限にとどめて、自然の変動を許容して共生するのか？どちらが人間にとって健康的なのでしょう？



Human beings have adapted to the environment
by architecture, clothing and machine.

室内気候研究所 主席研究員
工学博士 石戸谷 裕二
■公式 HP : <http://iwall.jp>